

| 令和4年度第1回長久手市地域包括ケア推進協議会 会議録 |  |
|-----------------------------|--|
| 開催日時                        | 令和5年3月13日(月)<br>午後1時から午後2時15分まで  |
| 場 所                         | 会議室棟2階会議室H、オンライン併用   |
| 出席者氏名<br>(敬称略)              | 委 員 田川佳代子、松永昌宏、荒井北斗、福井正人(オンライン)、平井佳彦、小幡匡史、牛田享宏、山口チカヨ、大須賀豊博、加藤圭子、見田喜久夫、細萱健一、佐古美知子、唐澤美穂<br>事務局 福祉部長 川本満男<br>長寿課長 水野真樹<br>長寿課課長補佐兼介護保険係長 遠藤健一<br>長寿課課長補佐兼地域支援係長 森延光<br>長寿課いきいき長寿係長 富田昌樹<br>長寿課地域支援係主任 藤井厚宏<br>長寿課介護保険係主事 追立志乃 |
| 欠席者氏名<br>(敬称略)              | なし   |
| 審議の概要                       | 1 あいさつ<br>2 委員の自己紹介<br>3 会長の互選及び副会長の指名<br>4 第9期高齢者福祉・介護保険事業計画策定スケジュールについて<br>5 長久手市の高齢者の状況について<br>6 長久手市高齢者くらしのチェックリストについて<br>7 第9期高齢者福祉・介護保険事業計画に向けた「みらいスケッチ」シートのまとめ<br>8 次回地域包括ケア推進協議会について                               |
| 公開・非公開の別                    | 公開   |
| 傍聴者                         | 0人   |
| 議事内容                        | 別紙のとおり   |

1 あいさつ

2 委員の自己紹介

3 会長の互選及び副会長の指名

委員の互選により会長に田川佳代子委員が就任。会長の指名により副会長に加藤圭子委員が就任。

4 第9期高齢者福祉・介護保険事業計画策定スケジュールについて

5 長久手市の高齢者の状況について

6 長久手市高齢者くらしのチェックリストについて

7 第9期高齢者福祉・介護保険事業計画に向けた「みらいスケッチ」シート  
のまとめ

**事務局** 全て関連するので資料3～6に基づき一括して説明。

**会長** 「みらいスケッチシート」の結果を見ると市民の皆様が「健康づくり」「地域とのつながり」「いきがづくり」を必要と考えていることが分かる。普段から高齢者に接している委員の皆様の、それぞれの立場からのご意見・ご感想をいただきたい。

**委員** 「くらしのチェックリスト」は前計画策定の際にも実施していると思うが、前回結果と今回の結果を紐づけ、個人の経過を分析することはできるか。

**事務局** 前回と調査項目を変えたこともあり、現時点でできるかわからない。調べて、次回協議会で回答したい。

**委員** 調査・分析は専門なのでできることがあれば協力したい。

**委員** 市内の調剤薬局として、市民の方の健康づくりに貢献したい。

**委員** 「つながり」は大切だが、心身の状態が悪化し、活動レベルが下がることによりつながれなくなることが課題。また、「趣味がない」という方が多い。特に男性が65歳を超えて趣味をつくるのは難しいと聞く。アンケート等でニーズを把握できると良い。

**委員** 資料4 高齢者のいる世帯の現状が気になった。同居世帯がどんどん減っていることに危機感をおぼえる。計画は3年単位だが、30年、40年先を見据えたものにしたい。みらいスケッチシートの回答者は、現在の高齢者である方がほとんどである。先を見据えた計画づくりのため、若い世代の声も集めるとよい。

**委員** 地域のつながりを重要だと考えて現在活動している。アンケートからもそれがわかる。いざというときに近くにすんでいる人が頼りになる。

**委員**市やNPO法人等、「居場所づくり」「生きがいづくり」に取り組むところは多い。しかし参加するかどうかはその人次第。一人で暮らす方の意見を見ると、地域のつながりづくりが重要なよう。困ったときに頼りやすい仕組みづくりをしてほしい。

**委員**私は1号被保険者なのでまさに自分のこと。今の自分は趣味を楽しんだり地域活動に参加したりできていると思った。しかし、今後心身の状態が悪くなったときにどうなるか、不安がある。

**委員**同居世帯の中にも、今を生きるだけで精一杯という方が一定程度いらっしゃる。そういう方の思いを拾えるような調査方法も検討してほしい。

**委員**自分は今社会福祉協議会と協力し、引きこもりがちな高齢者をひっぱりだすサロンなどを運営している。皆さんの意見を聞いて勉強したい。

**委員**理学療法士会のリハビリテーション情報センター局では地域の介護予防事業をまとめている。協力できることがあると思う。リハビリ成功のためにも大事なことが主体性である。今閉じこもりがちな人は現状の把握もできていないことが多い。まず「なじみの関係」を作ることから。なじみの人の存在は、始めるきっかけとしても、継続するためにもとても重要である。目指す姿のビジュアル化はとても良いと思う。ただ、理想を持っていない方もいらっしゃるので、あまり良くない事例を挙げることも良いと思う。「こうはなりたくない」とモチベーションにつながることもある。

**委員**アンケート調査にも分析にも労力がかかる。医師会では今年の10月に認知症をテーマとした在宅ケアのシンポジウムを予定している。

**委員**長久手市は平均年齢が若い、認定率が低いことは誇れる点ではないか。健康づくりに意識が高い住民が多いと感じている。つながれる場所や、その人の役割をいかにたくさん作れるかが大切だと思う。さらにそれぞれをつなげる仕組みが欲しい。とじこもりがちな人にとって「一緒に行ってくれる人」「なじみの人」がとても重要。そういう仕組みづくりを計画に入れてほしい。くらしのチェックリストの解析結果を楽しみにしている。

**委員**口の健康は全身の健康と切り離すことができない。そのことを市民に伝え、オーラルフレイル予防に貢献したい。

**事務局**貴重な意見をありがとうございました。委員の皆様のご意見から「地域のつながり」の中でも、「人どうしがつながること」の重要性を認識した。また、若い世代の意見を聞く方法についても検討したい。この会議を計画策定の第一歩として、今後策定を進める。

**会長**今年度初めての会議ということもあり委員の皆様から一言ずつい

ただいたが、他にもご意見あればお話しいただきたい。

**委員**人や地域とつながれる人、つながれない人がある。また、夫婦二人で暮らしていても、サービス付き高齢者向け住宅に入ればそれまでのつながりが切れてしまう。つながりはいずれ切れるという前提で考えることも必要では。

**会長**夫婦のみの世帯はいずれ独居になる。同居世帯だから大丈夫ということもない。セルフマネジメントは大切なことだが、判断能力の低下などにより、それができなくなる可能性がある。自分の判断能力が下がったことに引け目を感じ、「なじみの人」に頼れなくなることもある。そこに踏み込める地域や人のつながりができるのだろうか。それができなければ市の施策でカバーしたほうが良い。小学校区ごとにコミュニティソーシャルワーカーを置き、相談事を集約する仕組みなどが考えられる。

**委員**長い期間で見たとき、孤独死の問題も出てくる。「見守り」の視点も大切と考える。

**会長**（意見がないことを確認し）意見交換は以上とする。

#### 8 次回地域包括ケア推進協議会について

事務局から候補日を提示し、委員の都合を聞く。決定した日時については後日改めて連絡する。

以上